

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972200089		
法人名	株式会社クローバー		
事業所名	グループホーム四つ葉のクローバー		
所在地	奈良県宇陀市菟田野区古市場481番地		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年5月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成23年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で認知症があってもその人らしく暮らして頂ける様に、職員一同が心のかようなケアを実践しています。常に御利用者や御家族の立場に立って考え対応しています。そして、職員で各委員会を設置し運営に取り組んでいます。いろんな角度で話し合い目標を設定し綿密に申し送りをし業務を行っています。また、医療機関が母体である為、入居者様の特変時には24時間対応可能であり安心して暮らして頂ける環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、医療法人が設置・運営されており、医療・保健・福祉の連携による精神的安定と自立した生活の確保が図られています。利用者は、清掃の行き届いた共用空間で、優しい職員の見守りの中で趣味や特技等を活かしながら穏やかに生活されています。なお、地域社会との関わりを重視した運営に努められており、日常的な付き合いにも広がりが見られます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設である事を目指し日々の勤務の中で理念を確認し合い、理解し実践に取り組んでいます。	尊厳ある自立した生活・人格の尊重と利用者本位を基盤に、地域との結びつきを重視した理念があり、引継ぎ時等で理念の唱和がなされる等実践に活かす取り組みがなされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事や同グループの事業所の行事、施設のイベントにも参加して頂けるように呼び掛けています。日常的に挨拶をし、オープンな環境作りをしています。	事業所も地域社会の一員と認識され、清掃等社会活動への参加やフリーマーケット等、事業所行事の開催を通じ地域との付き合いに広がりが見られます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの訪問時やイベント開催時に認知症についての文章を配布したり小学生の訪問時にも年齢に応じて分かり易く説明させて頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議をさせて頂いています。ホームの年間行事予定や研修の予定の報告、入居者様の近況報告、事故等の報告をしています。いろいろな課題に対しての意見を交えホームの運営やサービスに生かしています。	運営推進会議は定期的に開催され、利用者の状況・行事計画と実績等の報告とともに、運営に関わる諸課題について意見交換がなされ、開陳された意見をサービスに活かす機会とされています。	会議に定型化傾向が見られますので、テーマ設定等に工夫され、会議機能が活かされる事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の支援会議に出席したり、特変時の報告等、現状をリアルタイムで伝え意見の交換や指導をして頂きあらゆる面で協力を依頼しています。	毎月の支援会議への出席と共に、運営上の諸課題の相談や情報交換のため適宜訪問され、行政との連携・強化に努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各研修に参加し理解できる機会を設けています。建物内はできるだけ施錠せず見守りの強化行っています。また、日々のケアの中で拘束になり得る事は無いが常に意識し取り組んでいます。	身体拘束の弊害を全ての職員が正しく理解されており、日々の支援の中で実践されています。なお、身体拘束に繋がる行為は無いかと、常に意識しながら支援されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修に参加し理解できる機会を設けています。常に入居者様の身体状況を申し送り変化が無いかの注意を払い内部での研修も定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでいる。現在、成年後見制度を利用し入居されている方もおられる為、必要な話し合いを定期的に行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書及び口頭にて十分に説明を行い対応している。不安や疑問についても安心して頂けるように配慮し理解と納得をして頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分説明をしている。また、苦情等については、第三者機関と契約している事も説明、また、契約書にも明示している。いろいろな意見を話し合い運営に反映させている。	家族の訪問時や運営推進会議で、不安に感じている事や意見・要望等を聴取し、記録・検証し、運営に反映する取り組みがなされています。なお、定期的に介護相談員の受け入れがなされ、外部者へ意見等を表す機会も確保されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や日々の申し送り、カンファレンスやミーティング時等意見を提案できる機会を設け記録し、反映させている。	事業所内に様々な委員会が設けられており、定期的開催される会議で意見開示・提言出来る仕組みがあります。出された意見等は記録・検証し、運営に反映させる取り組みがなされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を確認し常に意見を聞いている。資格や勤務状態に応じて給与水準を設け、年に一度人事考課を行い対応している。各自に向上心を持ってもらえるように各研修に参加させたり定期的に面談を行い意見を聞く機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表などを元に各人の把握に努めている。また、常に研修を受ける機会を設けている。内部研修は予め計画を立て各事業所別に取り組んで学習を進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学やグループホーム主催の研修会や勉強会に参加しネットワーク作りを積極的にさせ、意見交換の場を設けサービスの質の向上を図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にしっかりと把握できるように努めている。ゆっくりと思いに添ってお話しして頂ける様に対応し、認知症患者が進んでおられ、意見をお聞きできない場合は、家族様を通して今までの生活歴等を踏まえ安心して頂けるように努力している			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間に何度か面談を行い必要なケアについて十分話し合っている。家族様の気持ちに添い不安や心配無く施設での生活を営んで頂ける様に密に連絡を取れるように努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や生活歴を詳しくお聞きし、本人と家族の立場に立ってどんなサービスが必要かを他職種や他サービス提供者と共に連携を取り対応している。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あらゆる場面で共感できるように働きかけている、また、個々の関わりを大切にし、いろんな形で役割を持って頂けるような取り組みを行い一緒に生活をしているという環境作りをしている。			
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかに連絡させて頂き共に状況の変化の共有、理解しながら支え合っているように家族様にも協力をして頂き、支援を行っている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様を通じ馴染みの人達へ連絡を取ってもらい面会に来て頂いている。又、定期的に手紙を書いてもらい職員が投函している。馴染みの場所へは家族様の協力を得て外出もして頂いている。	馴染みの関係維持・継続は、安定した生活には欠かせないとの思いがあり、友人等の訪問要請や手紙の交換、また、馴染みの理美容院の利用等の支援に努められています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係把握に努め、レクリエーションや運動、散歩等をして頂いている。テーブルの席の配置も配慮し自然に関れるように支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況の変化、家族様の変化等も含め連絡を取り合っています。その時には必要とされている内容の相談に応じ、より良いケアの方向性も話す機会を設けています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の思いや意向また、希望を全職員で把握し、楽しみを持って生活を送って頂けるように常に話し合い対応しています。又、意思表示の困難な場合は表情等から汲み取りケアを行っています	日々の暮らしの中の会話や行動観察から、一人ひとりの思いや意向の把握に努められています。また、気づき等も記録・整理されています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様1人ひとりの生活歴はケアを行う上でとても重要な事である為、全職員が関りの中で大切にしています。また、施設入居に到るまでの経緯も理解し、情報を共有しケアに取り組んでいます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方、昼夜の変化等を把握し、介護計画を立てて総合的に支援出来るように努めています。又、残存機能を見極め積極的に[働きかけ例えば、洗濯や掃除、食器拭き等して頂いています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様とは本人の状況に応じ常に話し合える機会を作り、意向をお聞きし介護計画を作成している。また、職員とも全体のミーティングを毎月開催しその都度課題について話し合っている。	介護計画の作成とモニタリングの必要性を正しく理解され、適宜関係者が相談し、現状に即したものとなっているか検討されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は別に全体への申し送り記録、気づきノート作成、基本的に詳しく情報を記入し、共有している。その事により状態の変化や長期間による変化を掴んだ上で介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅介護事業所、訪問看護ステーション、デイサービスが隣接している為、いろいろな職種との意見交換も行ないながら多様に渡りその時々状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、民生委員等の協力を得て地域内の行事やお祭りに参加している。多くの場面で地域の住民の皆様の協力を得て安全に参加、楽しみを持って頂けるように支援をしている。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院が協力医療機関であり、本人及び家族様に納得して頂いている。月2回の往診体制が整っている。また、特変時にも適切な医療を受けて頂ける環境である。	かかりつけ医については、契約時に相談され、本人の希望を優先したものとなっています。なお、定期的に医師の往診があり、適切な医療の確保が図られています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関にホーム担当の看護師がおり、往診時や特変事も相談している。また、訪問看護ステーションからも特定疾患のある利用者に対し訪問を受け常に連携し対応出来る様に支援している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面記事には必ず状態の確認を行っている。主治医や担当看護師とも話し合う機会を持ち早期退院に向けての相談を行っている。また、退院後も往診等で常に状態の報告をし、連携がとれる関係作りをしている。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化に注意し、家族様に説明。主治医、関係者にも相談を話し合える時間を常に作り、方針を共有している。	終末期への明確な対応方針は確立されており、職員への意識の浸透と共有化が図られています。なお、状況の変化に応じて関係者とその都度相談・協議する事とされています。	終末期の明確な方針があり、職員への浸透・共有化が図られていますが、文書化の検討を期待します。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年全体で心肺蘇生や特変事の対応の実習を行っている。又、各入居者様の疾患に応じての起こりうるべき状態に応じた勉強会や対応を検討し、実習し、実践力が身に付くように対応している。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は整っていないのが現状であります。火災訓練等は自発的に行っています。	事業所関連施設の協力を得ながら、消火・避難訓練を自発的に実施されています。	大災害発生時は利用者を迅速に安全に屋外へ誘導する事が求められます。このことから、地域住民の協力は不可欠ですので、体制整備と災害時の緊急物品の備蓄の検討を期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や家族様構成などを考慮し、本人が自然な振る舞い出来る様な言葉掛けを意識を持ってできるように対応しています。	一人ひとりの意思の尊重と尊厳の確保を常に自覚され、言葉かけ・語調に配慮した対応に努められています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で事前の言葉掛けをしている。また、意思疎通の困難な入居者様にはスキンシップを図ったり、表情等から汲み取り対応し、気付いた点、希望など、記録し申し送りを重ね共有できるように対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を大切に、食事内容、入浴時間にも気を配り、希望に添った支援ができるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容とも本人の意見を大切に望むお店に車椅子や車で送迎をしている。また、職員は整容について気配りをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の感想など、常にお聞きし、楽しみのある物になるようにしている。準備や片付けを手伝って頂ける入居者様が少なくなりましたが、個々の能力に応じた部分を見つけ一緒にしている。	生活の中で食事は大きな楽しみの一つである、日々の会話の中から嗜好等を聞き出し、献立に活かす工夫がなされています。なお、能力に応じて食事の準備や後片付けに協働されています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分補給量のチェックを行い把握する。また、個々の病歴や身体状況に応じ、1日を通じて理解できるような勤務体制ができています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状況に応じて対応し、状態の確認を行い清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声掛け誘導を行いきるだけトイレでの排泄を支援している。日々の改善を心掛け一人ひとりの排泄パターンを理解し対応している、	排泄パターンの掌握・記録と行動観察等により、トイレ誘導がなされ自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の献立の元、メニューを決め対応している。水分摂取量の確認を行い、個人個人にあった体操や運動を取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態に応じた対応を心掛けています。入浴日の設定や時間帯の設定は無く、個々に添った対応をしています。	一人ひとりの希望に沿った入浴支援が図られています。なお、夜間入浴への体制も整えられています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じ対応している。起床時間を考慮昼食後の休息も勧めまた、夜間就寝時には、明かりや空調、湿度の調節も行い気持ちよく眠って頂けるような環境作りをしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を個々にファイル管理し理解出来る様にしている。また、副作用等についても担当の薬剤師から意見をきいている。服薬内容の変更時にも管理表をつけ状態の変化の把握を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中、個々の状態に応じて役割意識を持って頂けるような対応をしている。職員は個々の生活歴を理解し歌を唄ったり散歩に出掛けたりと気分転換の機会を設け楽しみのある生活を送って頂けるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出している。地域のお祭りや行事に参加し、場所取り等のめんでは、地域住民の方の協力も得ている。また、いろんな行事に家族様も参加し交流して頂けるように文書などで発信し本人が出かける事ができるように協力も得ている	加齢と共に体力・機能の低下傾向が見られ、外出機会の確保に工夫されていますが、広い敷地内での散歩と時折の外出程度に留まっています。	外出により受ける有効性を認識され、外出機会の確保に様々な取り組みがなされていますので、一層の充実と散歩の日常化への支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常でお金を持ち、使えるような支援はしていないが、年に数回の催しもの際は、職員が付き添いお金を持って希望する物を購入して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡のできる利用者様にはいつでも使って頂いている。手紙の代筆を行ったり、要望があれば内容を読ませて頂いたり積極的に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛けている。居間には季節の花を飾り音楽を流している。空調の調整、湿度の調整確認し対応している。また、両ユニット共、季節のディスプレイをし、居心地良く過ごして頂けるように支援をしている。	清掃が行き届き、明るく広い共用空間が確保されています。また、採光や換気への工夫がなされると共に季節感を大切にした装飾等がなされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮したり、移動してレクリエーションに参加して頂いている。また、共通の趣味を生かした活動も出来る様に考慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の面談時には、環境の変化による不安が増す事が無いようにできるだけ入居前に使用されていた物を持って来て頂き、不安が無く過ごして頂けるように配慮している。	使い慣れた家具や好みの品々が持ち込まれ、安心して過ごせる居室になっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の前に目印を付けたリ、トイレ、洗面所に大きく字を書いている。電気スイッチにラベルを貼り混乱しないように心掛けている。		